

專 門 分 野 I
基 礎 看 護 学

基礎看護学のねらい

基礎看護学で学ぶ内容は、各看護学の基盤となるものである。

看護学概論では、看護全般の概念をとらえ、看護の位置づけと看護の役割の重要性を認識することをねらいとする。基礎看護技術では、〈看護の基本となる技術〉〈生活を整える技術〉〈診療に伴う技術〉で構成し、看護の対象を生活者として捉え、援助するために必要な技術を学ぶ。臨床看護技術では、健康障害をもつ対象を理解し、健康障害の状態に応じた看護を学ぶ。

「看護学概論」

看護の基本概念である「人間」「健康」「環境」「看護」の考え方を理解した上で、人間の健康の保持増進にかかわる看護の役割と機能を幅広く学ぶ。

「看護の理論」

看護理論は看護の見方・考え方の方向性を示すものである。代表的な看護理論について学習し、臨床の場で生じる複雑な出来事との関係を系統的に理解するための基礎的能力を養う。

「看護の基本となる技術Ⅰ」（人間関係成立の技術）

看護は対象との相互作用の中で成立するものであり、看護を実践する上で対象を理解し、良好な人間関係を築くことは重要である。看護者としてのコミュニケーション技術を身につけ、人間関係を成立させるための基礎的能力を養う。また、生命の尊厳、患者の権利、医療事故といった医療・看護界における倫理上の課題を学び、看護を行う上で必要な倫理的判断をするための基礎的能力を養う。

「看護の基本となる技術Ⅱ」（対象把握の技術）

看護の対象は人間である。形態機能学等の知識をもとに、主に対象の身体面に焦点を当てた健康状態の評価を行うための身体診査技術を学び、看護を科学的に展開する基礎とする。

「看護の基本となる技術Ⅲ」（医療・療養環境を整える技術）

対象者の生活の場としての医療・療養環境を安全・安楽に保つために、医療安全対策と感染予防、環境調整に関わる基本的な技術を学ぶ。

「看護の基本となる技術Ⅳ」（看護過程）

看護を科学的かつ論理的に展開するための思考プロセスを学ぶ。アセスメントの枠組みとして、ゴードンの11の機能的健康パターンを活用し、また、看護診断を取り入れる。既習の学習内容を統合し、ペーパーシミュレーションにより看護過程の基本的な考え方と実際を学ぶ。

「生活を整える技術Ⅰ・Ⅱ」（食事・排泄を整える技術、活動休息・清潔・衣生活を整える技術）

看護の対象を生活者として捉え、形態機能学を活用し、根拠を持って対象の生活を整えるための技術を学ぶ。

「診療に伴う技術」（治療に伴う技術）

看護の役割である診療の補助において、安全かつ正確に実施できるよう、薬物療法、および診療や検査に伴う看護技術を学ぶ。

「臨床看護技術」

健康障害をもつ対象に起こりやすい症状に対する看護について学ぶ。ここでは、健康障害時に発症する発熱、呼吸困難、浮腫を取り上げる。事例に対するアセスメントのもと、症状の緩和を図るために複数の援助技術を組み合わせて提供できることをねらいとする。

「基礎看護学実習Ⅰ（人間関係成立と日常生活援助）」

疾病や障害を抱えた生活者としての患者を理解し、患者との人間関係を築く。また、校内で学んだ基礎知識や看護技術を統合し、患者に必要な日常生活援助を実践する力を育む。

「基礎看護学実習Ⅱ（看護過程の展開と日常生活援助）」

看護の問題解決方法としての看護過程を用いて、対象を総合的に理解し、看護を展開する力を育む。更に対象者の状態に応じた日常生活援助技術を安全・安楽に実践できることをねらいとする。

基礎看護学

【目的】

看護の対象である人間のライフサイクルと、健康の意義、及び保健・医療・福祉に於ける看護の機能と役割を理解し、看護の実践力となる基礎知識・技術・態度を習得する。

【目標】

- 1 看護全般の概念を学び、看護の本質と位置づけ及び役割を理解できる。
- 2 看護を実践する上での基礎となる知識と技術を習得できる。
- 3 対象の身体状況を理解し、生活の状態に応じた看護の基本技術が実践できる。
- 4 看護実践を科学的かつ論理的に展開するための能力を身につける。
- 5 安全・安楽な看護を提供するための判断力と実践力の基礎を身につける。

【構成および計画】

<講義>

科 目 (授業科目)	単位数	時間数	学年別計画時間		
			1年	2年	3年
看護学概論	1	30	1 (30)		
看護の理論	1	15	1 (15)		
看護の基本となる技術Ⅰ (人間関係成立の技術)	1	30	1 (30)		
看護の基本となる技術Ⅱ (対象把握の技術)	1	30	1 (30)		
看護の基本となる技術Ⅲ (医療・療養環境を整える技術)	1	30	1 (30)		
看護の基本となる技術Ⅳ (看護過程)	1	30	1 (30)		
生活を整える技術Ⅰ (食事・排泄を整える技術)	1	30	1 (30)		
生活を整える技術Ⅱ (活動休息・清潔・衣生活を整える技術)	1	30	1 (30)		
診療に伴う技術 (治療に伴う技術)	1	30	1 (30)		
臨床看護技術	1	30		1 (30)	
合 計	10	285	9 (255)	1 (30)	

<臨地実習>

科 目	実 習 内 容	単位 (時間)	時 期
基礎看護学実習Ⅰ	人間関係の成立と日常生活援助	1 (45)	1年次
基礎看護学実習Ⅱ	看護過程の展開と日常生活援助	2 (90)	1年次
合 計		3単位 (135時間)	

科目 看護学概論 1単位 (30時間)

科目目標：看護の概念を学び、看護の本質と位置づけ、役割について理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員による授業
看護の概念	12	1 看護の概念、看護の定義、目的が理解できる 2 看護技術の概念を理解できる	1 看護とは 2 看護の対象・目的・目標 3 看護の変遷 1 看護技術とは 2 看護技術の特徴と構造	専任教員
看護の対象	6	看護の対象を理解できる	1 看護の対象としての人間 1) 統合体としての人間 2) 人間と欲求 3) 人間と環境 4) ライフサイクル 5) 人間と性 2 患者と家族	
健康の概念	4	健康の概念を明らかにし、健康段階と連続性を理解できる	1 健康の定義 2 ウェルネスの概念 3 健康の段階と連続性 4 健康の捉え方 5 基本的権利としての健康 1) プライマリ・ヘルスケア 2) ヘルスプロモーション 3) 我が国における健康づくり対策の変遷 6 健康に影響する諸要因 1) 生活習慣 2) 社会環境 3) ライフ・ワーク・バランス	
看護の機能と役割	2	看護の機能と役割を学び、看護活動の概要を理解できる	1 看護の機能 1) 直接的看護活動、間接的看護活動 2) 実践の方法としての看護過程 2 看護活動の場と看護の役割 1) 地域における看護活動 2) 医療施設における看護活動 3) 保健福祉施設における看護活動 4) 継続看護	

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員による授業
専門職としての看護	2	看護専門職としての責任ある行動について考えられる	1 看護の専門性 2 看護師の役割 1) 説明責任 2) 倫理的配慮 3) 権利擁護（アドボカシー） 4) エンパワメント 3 保健師助産師看護師の義務 1) 守秘義務 2) 業務従事届出の義務 3) 臨床研修を受ける努力義務 4 専門職のキャリアデザイン	
国際看護・異文化看護	2	看護の国際協力について理解できる	1 世界の健康問題の現状 2 国際看護の基本理念 3 国際協力のしくみ 4 異文化理解	
まとめ・試験	2			

科目 看護の理論 1単位 (15時間)

科目目標：看護実践に必要となる主な理論を理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員 による授業
看護理論	12	1 看護理論の意義と分類を理解できる 2 主な看護理論の概要を理解できる	1 看護理論とは 2 看護理論を学ぶ意義 3 看護理論の分類 4 看護理論の変遷 1 主な看護理論 1) ナイチンゲール 2) ヘンダーソン 3) オーランド 4) ウィーデンバック 5) ペプロウ 6) トラベルビー 7) ワトソン 8) ベナー 9) オレム 10) ロイ *演習	専任教員
中範囲理論	2	看護実践に活かす中範囲理論を理解できる	1 看護実践に活かす中範囲理論 1) 大理論 2) 中範囲理論 3) 小理論	
試験	1			

科目 看護の基本となる技術 I (人間関係成立の技術) 1 単位 (30 時間)

科目目標：1 人間関係成立に向けての技術としてコミュニケーション技術を習得する
2 看護者として必要な看護倫理について理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員による授業
看護におけるコミュニケーション	22⑥	<p>1 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる</p> <p>2 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション技術を理解できる</p> <p>3 看護場面に応じた基礎的なコミュニケーション技術を習得できる</p>	<p>1 コミュニケーションの意義と目的</p> <p>2 コミュニケーションの構成要素と成立過程</p> <p>1) 言語的コミュニケーション</p> <p>2) 非言語的コミュニケーション</p> <p>3 関係構築のためのコミュニケーションの基本</p> <p>4 効果的なコミュニケーションの実際</p> <p>1) 傾聴</p> <p>2) 情報収集</p> <p>3) 面接</p> <p>4) 説明</p> <p>5) アサーティブネス</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>演習 〈2H〉</p> <p>日常生活場面の再構成</p> </div> <p>1 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション</p> <p>1) インフォームドコンセントと看護師の役割</p> <p>2) ペイシェントアドボケイトとしての活動</p> <p>1 患者とのコミュニケーション</p> <p>1) 出会い、聴く、話す</p> <p>2 医療スタッフとのコミュニケーション</p> <p>1) 報告・連絡・相談</p> <p>2) 交渉・調整・確認</p> <p>3 臨地実習における事例</p> <p>1) ケアとしてのコミュニケーション説明、確認、代弁、気遣い</p> <p>2) コミュニケーション障害への対応</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>校内実習 〈6H〉</p> <p>1 患者とのコミュニケーション</p> <p>2 医療スタッフとのコミュニケーション</p> </div>	専任教員

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員 による授業
看護倫理	6	看護者としての職業倫理に基づき、自覚と責任を持つ事の必要性を理解できる	1 倫理とは 1) 倫理・道徳・法の関係 2) 職業倫理 2 医療・看護における倫理の変遷 3 現代医療における倫理的問題 4 専門職と倫理 5 倫理原則と倫理的ジレンマ 6 看護者の倫理綱領	
まとめ・試験	2			

科目 看護の基本となる技術Ⅱ（対象把握の技術） 1単位（30時間）

科目目標：対象の健康状態を評価する意義と方法を理解し、対象把握のための基本技術を習得する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員による授業
観察とヘルスアセスメント	26⑫	<p>1 対象の健康状態を評価する意義と方法を理解できる</p> <p>2 基本的なフィジカルアセスメントを実施でき、正常な身体状況を理解できる</p>	<p>1 観察とは</p> <p>1) 看護における観察の目的</p> <p>2) 観察の方法・種類・ポイント</p> <p>2 看護におけるヘルスアセスメント</p> <p>1) ヘルスアセスメントの定義と目的</p> <p>2) 看護データベースと情報収集</p> <p>(1) アセスメントの視点</p> <p>(2) 情報の種類</p> <p>①主観的情報と客観的情報</p> <p>②身体的・心理的・社会的情報</p> <p>(3) 情報収集の方法</p> <p>①問診</p> <p>②観察法</p> <p>③身体審査</p> <p>1 フィジカルアセスメントの定義と位置づけ</p> <p>2 フィジカルアセスメントの技法と診査項目</p> <p>3 フィジカルアセスメントの3つの段階</p> <p>1) スクリーニング</p> <p>2) 系統別レビュー</p> <p>3) 系統別フィジカルアセスメント</p> <p>4 身体診査の進め方と身体診査技法の概要</p> <p>1) 問診</p> <p>2) 視診</p> <p>3) 触診</p> <p>4) 打診</p> <p>5) 聴診</p> <p>5 系統別フィジカルアセスメントの実際</p> <p>1) 呼吸器系</p> <p>2) 循環器系</p> <p>3) 腹部・消化器系</p> <p>4) 脳・神経系</p> <p>5) 運動器系</p>	専任教員

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員 による授業
記録・報告	2	<p>3 バイタルサインの測定ができる</p> <p>看護における記録・報告の意義と方法を理解できる</p>	<p>1 バイタルサインとは</p> <p>2 バイタルサインの変動因子</p> <p>3 バイタルサインのアセスメント</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>校内実習 (12H)</p> <p>1 バイタルサイン測定</p> <p>2 フィジカルアセスメントの実際</p> <p>1) 胸部：呼吸器系、循環器系</p> </div> <p>1 記録</p> <p>1) 記録の意義と形式</p> <p>2) 臨床における記録システム</p> <p>3) 記録に関する法律 (情報開示を含む)</p> <p>2 報告</p> <p>1) 報告の意義</p> <p>2) 報告の種類・方法</p>	
試験 (筆記・実技)	2			

科目 **看護の基本となる技術Ⅲ（医療・療養環境を整える技術）** 1単位（30時間）

科目目標：安全・安楽な医療・療養環境を整えるための基本を理解し、技術を習得する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員による授業
安全な医療環境	14⑥	<p>1 医療における安全の意義が理解できる</p> <p>2 感染防止の基本的方法を理解し、必要な技術を習得できる</p>	<p>1 医療における安全の重要性</p> <p>1) 安全の意義</p> <p>2) 看護の対象者の特徴</p> <p>3) 安全における看護の役割</p> <p>1 感染防止の基礎</p> <p>1) 標準予防策（スタンダードプリコーション）</p> <p>2) 感染経路別対策</p> <p>3) 洗浄・消毒・滅菌</p> <p>4) 無菌操作</p> <p>5) 感染性廃棄物の取り扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>校内実習〈6H〉</p> <p>1 衛生的な手洗い</p> <p>2 個人防護具の着脱</p> <p>3 無菌操作、滅菌手袋の装着</p> </div>	専任教員
安楽な療養環境	8④	<p>1 安楽な療養生活を保つための基礎的知識を理解し、安楽な病室環境を整える技術が習得できる</p>	<p>1 安楽を保つための環境の調整</p> <p>1) 病室環境</p> <p>(1) 共有スペース (2) 居住スペース</p> <p>2) 看護師の役割</p> <p>2 安楽な病室環境の援助</p> <p>1) ベッドメイキング</p> <p>2) 臥床患者のシーツ交換</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>校内実習〈4H〉</p> <p>1 臥床患者のシーツ交換（ベッドメイキング含む）</p> </div>	
	6④	<p>2 安楽を阻害する因子を理解し、対象の安楽を確保するための技術が習得できる</p>	<p>1 安楽の構成因子と阻害因子</p> <p>1) 身体面 2) 精神面 3) 社会面</p> <p>2 安楽を確保するための援助</p> <p>1) 安楽な姿勢、体位の特徴</p> <p>2) ケアを通じてもたらされる安楽</p> <p>(1) 電法</p> <p>(2) 清潔ケア</p> <p>(3) 体位の保持（ポジショニング）</p> <p>(4) リラクゼーション</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>校内実習〈4H〉</p> <p>1 安楽な体位の保持とリラクゼーション</p> </div>	
まとめ・試験	2			

科目 **看護の基本となる技術Ⅳ（看護過程）** 1単位（30時間）

科目目標：看護を科学的に展開するための思考プロセスと、基本的な方法を学ぶ

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員による授業
看護過程	28	<p>1 看護を系統的・組織的に行うための科学的思考のプロセスが理解できる</p> <p>2 事例を通して看護過程の展開ができる</p>	<p>1 看護過程の概要</p> <p>1) 看護過程とは</p> <p>2) 看護過程の構成要素</p> <p>3) 基盤となる思考過程</p> <p>(1) 根拠に基づいた看護</p> <p>(2) 問題解決過程</p> <p>(3) クリティカルシンキング</p> <p>2 看護過程の変遷・背景</p> <p>3 看護過程を学ぶ意義</p> <p>4 看護過程の各段階</p> <p>1) アセスメント</p> <p>(1) 情報収集</p> <p>①アセスメントの枠組み ゴードンの機能的健康パターン</p> <p>(2) 情報の解釈・分析・統合</p> <p>(3) 全体像の把握</p> <p>2) 看護問題の明確化（看護診断）</p> <p>(1) 看護診断とは</p> <p>(2) 看護診断の種類 実在型、リスク型、ヘルスプロモーション型</p> <p>(3) 看護診断の表記方法</p> <p>(4) 優先順位の考え方</p> <p>(5) 共同問題（合併症のリスク状態）</p> <p>3) 看護計画</p> <p>(1) 目標（成果）の設定</p> <p>(2) 看護介入計画の立案</p> <p>4) 実施 看護計画の実施と経過記録</p> <p>5) 評価</p> <p>5 看護過程と看護記録</p> <p>1 看護過程の実際</p> <p>1) アセスメント（情報収集、解釈・分析・統合）</p> <p>2) 看護問題の明確化（看護診断）</p> <p>3) 看護計画立案</p> <p>4) 看護計画の実施・経過記録（SOAP）</p> <p>5) 評価・修正</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 演習〈10H〉 ・事例展開 </p>	専任教員
まとめ・試験	2			

科目 生活を整える技術Ⅰ（食事、排泄を整える技術） 1単位（30時間）

科目目標：対象の生活（食事、排泄）を整えるための技術を習得する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員による授業
食事	12④	1 食事援助に必要な基礎知識が理解できる 2 栄養状態と食事摂取のアセスメントの視点が理解できる 3 食事の援助技術が習得できる	1 食事と栄養の意義 2 健康な食生活と食事摂取基準 3 栄養と消化吸収機能 4 食事援助の目的 5 食事の種類と形態 1 栄養状態 2 水分・電解質バランス 3 食欲 4 摂食能力 5 食に対する認識・行動 ＊経管栄養は老年看護学で学ぶ 1 食事に適した環境作り 2 対象に応じた食事援助の実際 校内実習〈4H〉 自力で摂取できない患者の食事	専任教員
排泄	16⑧	1 排泄援助に必要な基礎知識が理解できる 2 排泄のアセスメントの視点が理解できる 3 排泄援助技術が習得できる	1 排泄の意義 2 自然な排泄 1 排尿・排便のアセスメント 1) 排泄物の量・性状 2) 腹部 3) 排泄動作 4) 排泄への影響因子 1 排泄の基本的援助 1) 排泄環境の整備 2) 排泄器具 3) 自然排泄を促す援助 4) トイレ・ポータブルトイレの援助 5) 床上排泄の援助 2 主な排尿障害とその援助 1) 頻尿 2) 尿閉 3) 排尿困難 4) 尿失禁 3 主な排便障害とその援助 1) 便秘 2) 下痢 3) 便失禁 4 排泄経路の変更 校内実習〈8H〉 1 便器・尿器を用いた床上排泄の援助（自然排便・排尿） 2 浣腸・摘便 3 導尿	
まとめ・試験	2		＊おむつ交換、留置カテーテル管理は老年看護学で学ぶ	

科目 **生活を整える技術Ⅱ（活動休息・清潔・衣生活を整える技術）** 1単位（30時間）

科目目標：対象の生活（活動休息・清潔・衣生活）を整えるための技術を習得する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員による授業
活動・休息	12⑥	1 活動・休息の援助に必要な基礎知識が理解できる 2 活動・休息のアセスメントの視点が理解できる 3 活動・休息の援助技術が習得できる	1 活動・休息の基礎知識 1) 活動の基礎知識 (1) 活動と運動の意義 (2) 活動と運動に影響する要因 (3) 姿勢・体位 (4) ボディメカニクス (5) 体位の種類 2) 休息の基礎知識 (1) 睡眠・休息の意義 (2) 睡眠と休息に影響する要因 1 活動・休息のアセスメント 1) 日常生活動作（ADL） 2) 睡眠状態 1 活動・休息の援助 1) 活動の援助 (1) 歩行の援助 (2) 体位変換 (3) 床上移動 (4) 車椅子への移乗・移送 (5) ストレッチャーへの移乗・移送 2) 休息・睡眠を促す援助方法 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 校内実習〈6H〉 1 体位変換 2 移乗・移送 </div>	専任教員
清潔・衣生活	16⑧	1 清潔・衣生活の援助に必要な基礎知識が理解できる 2 清潔・衣生活のアセスメントの視点が理解できる 3 清潔・衣生活の援助技術が習得できる	1 清潔の意義 2 清潔の効果と身体に及ぼす影響 1 清潔・衣生活に影響する因子 1) 皮膚の状態 2) 治療上の制限 3) 日常生活動作（ADL） 4) 生活習慣 1 身体各部の清潔の援助方法 1) 入浴 2) 清拭 3) 洗髪 4) 部分浴 5) 口腔ケア 6) 陰部洗浄	

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員 による授業
まとめ・試験	2		<p>7) 整容</p> <p>2 衣生活の援助方法</p> <p>1) 病衣の選択</p> <p>2) 寝衣交換</p> <p>3 清潔行動・衣生活の自立度に応じた援助</p> <div data-bbox="762 495 1203 636" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>校内実習〈8H〉</p> <p>1 足浴 2 洗髪 3 清拭</p> <p>4 寝衣交換</p> </div> <p>*陰部洗浄の技術は老年看護学で行う</p>	

科目 診療に伴う技術（治療に伴う技術） 1 単位（30 時間）

科目目標：看護の役割である診療の補助において、安全かつ正確に実施するための知識・技術を習得する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員による授業
薬物療法と看護	22 ^⑫	<p>1 薬物療法の意義と基礎知識が理解できる</p> <p>2 安全・確実に与薬するための基本技術が習得できる</p>	<p>1 与薬の基礎知識</p> <p>1) 薬物療法の意義と目的</p> <p>2) 薬物療法に必要な看護師の役割</p> <p>3) 薬物療法における法律</p> <p>4) 薬物の管理と取り扱い方法</p> <p>5) 薬物の剤形と薬物動態</p> <p>6) 与薬の指示と処方箋</p> <p>7) 安全で正確な与薬方法</p> <p>1 与薬方法</p> <p>1) 経口与薬・口腔内与薬</p> <p>2) 吸入</p> <p>3) 点眼・点鼻</p> <p>4) 経皮的与薬</p> <p>5) 直腸内与薬</p> <p>6) 注射法</p> <p>(1) 皮内注射 (2) 皮下注射</p> <p>(3) 筋肉内注射 (4) 静脈内注射</p> <p>(5) 点滴静脈内注射</p> <p style="text-align: right;">* 中心静脈栄養を含む</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>校内実習〈12H〉</p> <p>1 経口与薬法 2 直腸内与薬法</p> <p>3 筋肉内注射 4 点滴静脈内注射</p> </div>	専任教員
輸血療法と看護	2	輸血療法の基礎知識と看護が理解できる	<p>1 輸血療法と看護</p> <p>1) 輸血の目的</p> <p>2) 輸血の種類と取り扱い方法</p> <p>3) 輸血の管理方法</p> <p>4) 輸血療法の実施</p> <p>5) 副作用の観察と看護</p>	
診療・検査に伴う看護	4	診療・検査を受ける対象とその看護が理解できる	<p>1 診療と看護</p> <p>1) 診療のプロセス</p> <p>2) 診療における看護師の役割</p> <p>3) 診察時の援助</p> <p>2 検査と看護</p> <p>1) 検査における看護師の役割</p> <p>2) 検査の種類とその看護</p> <p>(1) 検体検査の種類と採取方法</p> <p>尿、便、喀痰、血液、胸水、腹水、骨髄液、脳脊髄液</p>	

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員 による授業
試験 (筆記・実技)	2		(2) 生体検査の種類と看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ X線検査 ・ CT ・ 心電図 ・ 内視鏡検査 ・ 超音波検査 ・ MRI ・ 肺機能検査 ・ 核医学検査 <p style="text-align: center;">*検査については、治療論 I で学ぶ</p>	

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある教員 による授業
救急医療	6	救急医療体制と救急医療における看護の役割が理解できる	<p>3 浮腫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 浮腫の定義 2) 浮腫のメカニズム 3) 浮腫の観察とアセスメント 4) 浮腫を緩和する援助 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>校内実習〈6H〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 酸素吸入・ネブライザーの基本操作 2 症状（発熱・呼吸困難・浮腫）に合わせた援助 ※事例をもとに考える </div> <ol style="list-style-type: none"> 1 救急医療体制と看護の展開 2 救急患者の観察とアセスメント 3 主要病態に対する救急処置 	医師
まとめ・試験	2			